

様式1(表)

交通安全施設等
整備事業

(設計概要書)

県名					
	工 歩 道	自 転 車 道	中 央 帯	交 差 点 改 良	横 断 歩 道 橋
	()	車 両 停 車 帯	路 肩 改 良	視 距 改 良	地 下 横 断 歩 道
種	登 坂 車 線	付 加 車 線	歩 車 共 存 道 路		

注1) 該当するものを○で囲む。

2) 自転車道の場合は様式1による自転車道の内訳を()内に記入すること。

1 路 線 名

2 道 路 種 別

3 箇 所 名

4 道路対象区間番号

5 交 通 量

6 歩 行 者 数

7 横 断 者 数

8 自 転 車 数

9 現 道 幅 員 構 成

() 歩道、中央帯、自転車道、交差点改良、車両停車帯、路肩改良、登坂車線、付加車線、歩道共存道路

延 長	幅 員	事 業 費	km当り単価 (事業費)	km当り単価 (本工事費)	本工事費	用地費	補償費	$\frac{\text{補償費}}{\text{事業費}} \times 100$
m	m	千円	千円	千円	千円	千円	千円	%

() 横断歩道橋、地下横断歩道

橋 長	幅 員	事業費	全体m当り 単 価 (事業費)	鋼 材 総 t 数	鋼材t当り 単 価	本工事費	用地費	補償費	$\frac{\text{補償費}}{\text{事業費}} \times 100$
m	m	千円	千円	t	千円	千円	千円	千円	%

上部工費	下部工費	附属施設工 ()	附属施設工 ()
千円	千円	千円	千円

1 設 計	標準設計図、新規設計
2 形 式	桁 ()階段()
	支間()幅員()
3 地盤状況	

() 現 況 写 真

(V) 1 / 50000地図又は市街図(各工種)

延べ延長

(五) $L = (\text{〇〇})\text{m}$ $C = \text{〇〇}$ 百万円

(二) $L = (\text{〇〇})\text{m}$ $C = \text{〇〇}$ 百万円

(三) $L = (\text{〇〇})\text{m}$ $C = \text{〇〇}$ 百万円

〇〇 m

〇〇 m

C = 〇〇 百万円

C = 〇〇 百万円

黒色

赤色

緑色

七箇年進捗状況表

	事業着手年度	七計全体計画	H8年度	H9年度	H10年度	H11年度	H12年度	H13年度	H14年度	完成目標年度
延 員		(100%) L =	() L =	() L =	() L =	() L =	() L =	() L =	() L =	
事業費		(100%) C =	() C =	() C =	() C =	() C =	() C =	() C =	() C =	

(注) イ 7力年計画全体、過年度ごとの完成区間、当年度完成予定区間を旗上げし、それぞれの延長(道路延長、延べ延長)、事業費を記入する。
ロ 7力年計画は緑色、過年度の完成区間は黒色、当年度の完成予定区間は赤色で、延べ延長を着色する。
ハ 7力年計画区間外の前後で、歩道が設置されている場合は黒色で着色する。
ニ 小学校、幼稚園の位置を記入する。

() 代表横断面

(注) イ 横断歩道橋では、下部工の概略図(下部型式杭長等)
ロ 青写真等を貼付してよい。
ハ 車道歩道等全体幅員構成が解るよう作図すること。
ニ 幅員、構成のうち将来計画がある場合は点線で示すこと。
ホ 工事部分は赤色、用地先行は黄色、過年度施工分は黒色で着色する。

() 平 面 図

完成予定道路延長

設計延長 $L = L_1 + L_2 - L_3$

$(L_1 + L_2)$

()は延べ延長

道路延長

工事 $L_2 = \text{〇〇}\text{m}$

L_3

用地 $L = \text{〇〇}\text{m}$

工事 $L_1 = \text{〇〇}\text{m}$

(注) イ 見取図程度とする。青写真等で貼付してよい。
ロ 当年度区間について、工事(赤色)、用地及び補償(黄色)を旗上げしその延長を記入する。
ハ 過年度用地のみの区間は黄色実績(旗上げなし)で、歩道設置区間は黒色で表わす。
ニ 図面内で7力年残区間があれば、それぞれの色で点線表示する。